

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 14 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870500810		
法人名	社会福祉法人 はびねす福祉会		
事業所名	グループホーム おてだま		
所在地	新居浜市若水町1丁目9-13 (電話) 0897-31-2155		
管理者	田坂愛子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 9 月 10 日	評価確定日	平成 20 年 10 月 15 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 8 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 16 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	17.6 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	280 円	昼食 600 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり	1,380 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 8 月 10 日事業所記入)

利用者人数	27 名	男性 名	女性 27 名
要介護 1	3 名	要介護 2	9 名
要介護 3	11 名	要介護 4	3 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 84.6 歳	最低 70 歳	最高 98 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

商店街の4階建て総合福祉施設の一画に3ユニットのホームがある。開設して6年あまりが経過し、職員も利用者も落ち着いた生活を送っている。職員教育や情報交換をはじめ、防災訓練の実施や車両の活用等、法人全体で複合施設としてのメリットを有効に活用している。職員は、ホームが施設でなく家庭としての特色を加えていけるよう、日々のケアに努めている。広めのベランダにはたくさんの草花や季節の野菜を栽培し、自然を味わっている。ホームの出入りはロック付きのエレベーターを使用しているため、広い屋上が散歩や休憩場所となっている。利用者の介護度にはばらつきがあるが、一人でいつでもどこにでも外出したい方から見守りが常に必要な利用者まで、個々の思いに添えるよう取り組んでいる。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
理念の見直しは全職員参加で検討を重ね、地域との関わりについても話し合って作成し、自分たちで作った理念として馴染んでいる。出入口の施錠はビル内の他事業所との兼ね合いもあり、他の方法も含めて検討を続けている。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
全員で自己評価し、会議で話し合いまとめている。評価の意義も理解しており、ケアの振り返りとして捉え、改善に向けて取り組む姿勢がある。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
定期的に2か月に1回開催している。ホームの状況報告はホームを理解してもらうのに役立っており、また地域行事等の情報を収集する場としても活用している。また、それぞれの専門職が報告や学びの機会を提供しており、感染症、地域密着型サービス、成年後見制度、ターミナルケア、認知症など、テーマを決めて学び合っている。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
家族等の来訪時に情報交換したり、電話・手紙・写真等で生活ぶりを伝えるなどしており、出された意見等は管理者及び職員で検討してできるだけ早く対応している。また、意見箱を設置したり、契約時には外部の相談窓口等について説明している。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
運営推進会議や地域行事等への参加を重ねることで地域の方とのつながりができており、情報も蓄積されてきている。寂れつつある商店街のビルの4階に位置しているため、ご近所付き合いも個々には難しいが、ホームの役割を果たしつつ利用者が主役となる取り組みが可能であるかを今後の課題としている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームおてだま

(ユニット名) 紙ふうせん

記入者(管理者)
氏名 田坂愛子

評価完了日 平成 20 年 8 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 職員全員で新しい理念を作成した。平成19年4月 (外部評価) 職員全員で検討を重ね、平成19年4月に作成している。全員で作成したことで、職員は理念をより身近に感じることができ、地域とのつながりを大切にしている。また、各ユニットごとに目標を立てて取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 朝の申し送り時に理念を確認しあっている。カンファレンスなどに常に理念を意識した話し合いをしてケアプランに生かしている。 (外部評価) 職員会議の際などを活用し、実践に活かすよう話し合っている。また、理念や目標を事務室、玄関、廊下に掲げている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議などで折に触れ、理念を伝えている。	※	地域の活動に参加しながら少しずつ理念の浸透をはかりたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や買い物では、挨拶や話はできているが、事業所がビルの4階にあるために入りにくさは否めない。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会の文化祭、校区の運動会、夏祭りへの参加、児童センターの子供たちとの交流、などに取り組んでいる。 (外部評価) 地域行事の情報は少しずつ蓄積してきており、自治会の文化祭、校区運動会、祭り等への参加、児童センターの子どもたちとの交流、地域の伝統行事への参加などを通じて交流を深めている。また、地域のボランティアを通じての交流にも取り組んでいる。ただ、ホームがビルの4階にあるため気安く立ち寄ってもらうことが難しく、ご近所付き合いについて検討を続けている。	※	児童センターの子供たちとのつながり、地域の伝統行事への参加などさらに交流の機会を増やしていきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 実習生の受け入れは出来ているが、地域の高齢者に対しての取り組みは充分ではない。	※	老人会、自治会などに出向いて認知症についての学習会などを行う。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価は職員全員で行い、外部評価の結果も周知しており、改善にむけて取り組んでいる。 (外部評価) 職員は評価の意義を理解しており、自己評価を職員全員で行っている。外部評価結果も周知しており、評価を活かした改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 評価についての意見交換を行いサービス向上に生かしている。 (外部評価) 本人、家族、地域代表者、行政関係者等の参加で定期的開催している。ホームの運営状況や意見・提案や、認知症や福祉に関する勉強等で理解を深める機会としている。意見や提案には具体的に取り組んでいる。	※	地域の人の幅広い参加を呼びかける。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 業務上の問題点、疑問点などを尋ねる以外はあまり行き来できていない。 (外部評価) 市の担当者とは相談や情報交換ができています。	※	市担当者に積極的に関係作りを行う。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 特定の利用者について関係者と協議した。地域包括支援センターに後見人制度についての学習会を依頼し開催した。	※	さらに制度についての学習会を開く。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止関連法の学習会に参加したり、会議の時に話し合ったりして虐待防止の徹底を図っている。特に「言葉」の虐待については常に検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行い、退去時にも同様にし、関係者の理解を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉、態度などから要求、意見、苦情を考察し、カンファレンスなどで話し合っている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 利用者の担当職員が、定期的に利用者の状態を便りと写真で知らせている。 (外部評価) 来訪の多い家族には来訪時に報告し、情報交換もしているが、そうでない場合は電話や手紙等、個々に対応している。健康状態の報告はきめ細かくしている。状態が思わしくなかったり認知症が進んでいるような時の報告は家族の受けるダメージも深く、特に注意している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の意見、不満をなるべく聞きだすよう努めている。カンファレンスなどで話し合い、対応できるようにしている。 (外部評価) 家族の意見や不満や苦情には早急に対応するよう努めている。できるだけ意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけており、意見箱を設置したり、契約時に外部の相談窓口を説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 折に触れ、意見提案を聞いているが、不満や苦情をすべて、把握しているとは言いがたい。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 時間帯をずらすなど、柔軟に対応しているが、充分とは言えない。	※	必要な時間帯に、さらに職員が確保できるようにしていきたい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動や離職がある場合は、ダメージはなるべく少なくなるよう配慮している。 (外部評価) 退職や法人内での異動もあるが、引き継ぎや教育期間を工夫し、なるべく馴染みの関係を保てるよう配慮している。退職する職員については、利用者への影響を考慮してそっと引き継ぐケースが多い。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会や講演会には参加できるようにしている。 (外部評価) 新人研修は計画的に実施している。外部研修にもできるだけ参加するようにしている。基本的に自主参加としているが、参加費の補助があり、レポート提出や報告の機会がある。法人内研修は各専門分野の職員が担当して実施している。ホームの勉強会は会議時等の機会を捉えて行っている。	※	さらに有意義な研修をさらに多数の職員が受講できるようにする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 相互評価への参加や地区のグループホーム研修会に参加している。 (外部評価) 東予地区グループホーム連絡協議会の管理者交流会等の機会に具体的に情報交換している。また、相互評価に参加したり、研修会の参加時も交流の良い機会となっており、質の向上に相互に取り組んでいる。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 茶道、華道、着付け教室などに参加できる。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けた支援をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面接時には本人の状態把握に努めるようにしている。又家族にもアセスメントシートの記入を依頼し生活暦等把握出来る様になっている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居時の面接や面会時、家族の心配事、希望などを十分に時間をかけて聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と話し合い、状況を見極めてサービス利用の紹介、対応をしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) なるべく環境変化のストレスを軽減させるよう配慮している。 (外部評価) 法人内別事業所や自宅からの利用が多い。家族の説明で納得しての利用が望ましいが、納得や理解ができていないこともあり、家族と情報交換を密にして、環境の変化への配慮を個々に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者とともに、喜び、悲しみ、「介護される人」ではなく一緒に暮らしていく仲間として支えあっている関係を作ることを心がけている。 (外部評価) プライドを尊重し、言葉遣いや態度に注意している。得意なことを教えてもらい、一緒に生活して支えあう姿勢を持って支援している。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会や連絡の多い家族には、話し合う機会も多く一緒に支えていく関係も築きやすい。	※	面会にこられない家族に対しては、こちらから積極的に情報を提供していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人の状況を細かに知らせるようにし、家族と良い関係が築けるように支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 幼馴染の訪問、馴染みの店への外出など、関係を継続している。	※	お墓参りなど、行きたい場所への支援をもっと充実させたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性は常に情報共有できるようにし、できるだけ「共に暮らす」暮らしを考慮しながら支援している。	※	利用者間のトラブルをなるべく早く察知して、回避している。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所してからも、家族の相談にのったり、移転先の他事業所に面会に行ったりしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人にとってどうなのか？ということを常に考えながら、会話の中、表情などから、推し量るようにしている。 (外部評価) 生活や会話の中で本人の思いや意向の把握に努め、生き甲斐を一緒に見つけていく姿勢を持つよう努めている。	※	本人の希望、意向はもっと探っていかなければならないと思われる。「生き甲斐」となるものをどのように築いていくかを常に検討しながらの支援をしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族からの聞き取り等により把握している。生活アセスメントシートに記入していただく。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 生活記録表や日々の様子から、ひとりひとりの現状把握に努めている。生活アセスメントシートに記入していただく。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や本人の意見を聞き、ケース会で話し合いながら、ケアプランを作成している。 (外部評価) 本人や家族の意向を把握して介護計画に反映させている。職員のカンファレンスで計画の評価を月2回程度行い、計画に活かしている。	※	面会にこられない家族に対しては、こちらから積極的に情報を提供していく。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) ケアプランの見直しは定期的に行っているが、本人の状態変化があったときは、現状に即したケアプランを作成している。 (外部評価) 定期的な見直しを行い、必要時にはその都度見直している。利用者個々に担当者を設定している。食事、排泄、入浴、転倒リスク等の一覧表として情報をまとめており、実践や評価に利用している。	※	緊急の場合は、家族の参加が難しいことがあるので、機会をみて説明し、意見を求めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のケース記録は、介護計画をもとに記録し、「気づき」に重点をおいている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人、家族の希望で通院介助をしている。 (外部評価) 本人の希望に添うことを大切にしており、家族の協力を得ながら支援している。通院、理美容院へ出かける、買い物、墓参り、仏事、観劇、友人と会うなど、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 火災訓練を行ったり、図書館を利用したり、地域の文化祭に参加している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要に応じて理美容サービスを利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に包括支援センターの職員が参加しており、いろいろな情報を得られている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者各自に主治医がおり、受診の時は職員が同行している。 (外部評価) 本人及び家族の希望する医療機関への受診を支援している。協力医療機関はホームのすぐ近くで、管理者や看護師が中心となって連携を取っている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 市内にある認知症専門医に定期的に受診している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) グループホーム内に看護師が配属されており、健康管理に気を配っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した場合は、頻回に面会に行き、常に医療関係者や家族と早期退院にむけて、調整している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 今までは対象となる利用者はいなかったが、ニーズがあれば対応できる。 (外部評価) 早い段階から本人や家族の希望を確認し、本人、家族、医師等で話し合っている。終末をホームで迎えた経験は無いが、対応に向けて検討を重ねている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 現在対象となる利用者はいないが、将来必要となれば対応していく。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 同一施設内の移動が多く、十分な情報交換ができ、移動後も職員やホーム利用者も訪ねている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職員会、ケース会など機会あるごとに言葉かけ、対応についての留意点を注意喚起し、向上していくように努力している。プライバシーの保護もカンファレンスで再三検討している。 (外部評価) 言葉かけや態度について職員会議等で機会あるごとに話し合っている。記録類は事務室で保管し、取り扱いに注意している。書類の廃棄処分は法人でまとめて処理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 個人の趣味、好みを話し合いながら利用者の決定を尊重しながらの暮らしを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 大まかな1日の流れはあるが、個人の状況に合わせて柔軟に対応している。 (外部評価) 大まかな一日のスケジュールはあるが、個々の希望や状況に添ってできるだけ柔軟に支援している。	※	さらに希望にそえるように努力したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 朝の更衣時に自分の好みで整えている。外出の時などは、おしゃれを楽しむように支援している。行きつけの美容院や、化粧品店などを利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 各々の好みの食事を作るようにしている。調理、盛り付け、片付けも、利用者と一緒に行い、同じ食卓に向かいながら、楽しく食事できるような雰囲気作りにも取り組んでいる。 (外部評価) 朝食と夕食は、法人の厨房で一括して作ったものを利用者と共に配膳等している。昼食は利用者と共に献立を決め、買い出しに行き一緒に作っている。個々の好みや力に応じた工夫をして職員と共に楽しみながら食事している。食事に関する一連の作業は各自できる範囲で参加しており、自分の役割としている利用者もいる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の体調をみながら、それぞれの希望を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄記録表を作成して、一人一人の状態を把握し、失敗のないようにさりげなくトイレ誘導をしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 夜間浴はできていないが、他は各々の希望にそうようにしている。 (外部評価) 毎日の入浴が可能な体制にしている。個々の希望やタイミングに合わせているが、少なくとも一日おきには入浴できている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中に活動性を上げるようにし、夕方からは、就寝に向けて穏やかに過ごせるよう支援している。表情や態度を見ながら休息を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味や経験などを生かしてもらえような行事、役割などを作り支援している。 (外部評価) 利用者の趣味や経験、日頃の行動や会話から楽しみとなることに結びつけられるよう支援している。インコやオロギの世話、掃除や片付け、オルガン演奏、絵画・書画作成、観劇、手芸品の作成、料理等活発にしている利用者もいる。	※	生活の質を上げる為に常に利用者と一緒に探求していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の希望、力量に応じてお金を所持して使っている。利用者によっては、出納帳をつけ面会時に家族に確認していただく。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は散歩、買い物に出かけている。観劇やカラオケなど個人の希望の店に行けるように支援している。 (外部評価) 体調や天気に配慮しながら買い物や散歩をしている。個々の希望に応じて図書館や本屋へ出かけたり、絵をみたり、観劇やカラオケにも行っている。しかし、職員はまだまだ個々の要望には応じ切れていないので、さらに取組みたいと考えている。次第に行動範囲が狭まる利用者は、広い屋上も散歩コースとなっている。	※	さらに、いつでも、どこにでも外出支援ができるようにしたい。 利用者の要望は多様で、いつでも、どこにでも行きたいという希望もあるため、より具体的に希望について検討を続けることを期待する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 希望がかなうように努力はしているが、限られた場所になりやすい。	※	遠方の外出を支援していきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望にそうように支援している。	※	家族に絵手紙を出したり、携帯電話などを利用している。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会にこられた方がゆっくりと過ごせるようお茶、コーヒー等だしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は決してしてはならないという意識を徹底している。	※	さらに、学習会などで意識強化を図りたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所が4階にあるため、各ユニットの玄関の施錠はしていないが、外からの進入口には電子ロックがある。 (外部評価) ホーム玄関の鍵はしていないが、エレベーターに電子ロックがあり、利用者の出入りが一人ではできない。鍵をかけない工夫については全職員で検討を続けているが、ビルの4階にある複合福祉施設であるため他事業所との兼ね合いもあり、ロック解除には至っていない。	※	電子ロックを解除していく方向で検討したい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員は記録などリビングで見守りながら取るようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じた対応をしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハット、事故報告などを作成し、常に事故防止に心がけている。定期的に消防訓練を行っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 全ての職員が救命救急の研修を受け、緊急時の対応マニュアルも周知徹底をはかっている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力で避難訓練や消火器の使い方などの訓練は おこなっている。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得ながら避難訓練を実施している。法人全体で、夜間を想定しての訓練も実施している。フロアの続きにスロープがあり、避難路としている。訓練参加者はその都度振り返りをしている。	※	地域の人々との協力体制が取れるように検討する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 機会ある毎に左記のように説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) バイタルチェックは毎日行っているが、常に状態観察を怠らず、変化があれば、看護師に報告し対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルをケース毎に整理して、職員が分かりやすいようにしている。新たな薬の服薬時には、特に状態変化に気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録表を作成し、排泄状態を把握しながら、食事の内容の検討、水分補給を心がけ、身体を動かすような支援をしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを支援している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量を記録し、情報を共有している。同施設の管理栄養士にアドバイスをもらっている。日常的に水分摂取量を記入している。 (外部評価) 食事量、栄養バランス、水分量等一人ひとりの状態を把握し、時折法人の管理栄養士がチェックしている。個々の状態や習慣に応じた支援をしており、卵アレルギーの利用者の食事支援にはかなり手間をかけている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染予防委員会があり、マニュアルを作成し、実行している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理器具などは、毎回熱湯消毒し、衛生管理に努めている。食品はできるだけ毎日買い物に出かけ新鮮なものを購入している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ビルの4階にあるため近隣の人にとっては入りにくい。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング、廊下、和室など季節を取り入れたしつらえを工夫している。 (外部評価) 居間、廊下、畳のコーナーはゆったりしており、ベランダや玄関には観葉植物や草花があり、落ち着きを感じる。台所と食堂はお互いの気配が分かり、調理の臭いや音が日常を感じさせる。浴室やトイレは手すりがついて広く、勝手がよい。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室を利用している。掘りごたつを設置している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や、家族の写真などを置いている。 (外部評価) 部屋の多くは洗面台と洋式トイレが設置されている。それぞれ個性的な部屋で、自宅から仏壇、エレクトーン、テレビ、タンス、机、ソファ、写真、手芸作品、書画等を自宅から持ち込んで配置したり、飾っている。家族の協力で季節の衣類等の入れ替えもしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎朝、掃除の時には窓を開け換気を行っている。エアコンの温度はこまめに調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差がなく、廊下、浴室、トイレ内には手すりが設置されている。介護用ベッドも利用している。	※	歩行が不安定な利用者の居室内に手すりが必要である。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 何が障害となっているかを見極めて、できる力を維持するような環境を整えている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花を植え、水遣りをしたり、小鳥の世話をしたりと楽しんで活動できている。野菜を育て、収穫して調理することに意欲的に取り組んでいる。	※	野菜の種類を多く植えて、収穫を楽しみたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) ③ 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

日常生活の家事役割を遂行しながら、社会とのつながりを大切にして個々の趣味活動の実現をはかっている。(地域の文化祭への参加、校区の運動会に出場する、図書館、映画館の利用、観劇など)

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームおてだま(ユニット名) 風ぐるま記入者(管理者)
氏名 田坂愛子評価完了日 平成 20 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 職員全員で新しい理念を作成した。平成19年4月 (外部評価) 職員全員で検討を重ね、平成19年4月に作成している。全員で作成したことで、職員は理念をより身近に感じることができ、地域とのつながりを大切にしている。また、各ユニットごとに目標を立てて取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 朝の申し送り時に理念を確認しあっている。カンファレンスなどに常に理念を意識した話し合いをしてケアプランに生かしている。 (外部評価) 職員会議の際などを活用し、実践に活かすよう話し合っている。また、理念や目標を事務室、玄関、廊下に掲げている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議などで折に触れ、理念を伝えている。	※	地域の活動に参加しながら少しずつ理念の浸透をはかりたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や買い物では、挨拶や話はできているが、事業所がビルの4階にあるために入りにくさは否めない。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会の文化祭、校区の運動会、夏祭りへの参加、児童センターの子供たちとの交流、などに取り組んでいる。	※	児童センターの子供たちとのつながり、地域の伝統行事への参加などさらに交流の機会を増やしていきたい。
			(外部評価) 地域行事の情報は少しずつ蓄積してきており、自治会の文化祭、校区運動会、祭り等への参加、児童センターの子どもたちとの交流、地域の伝統行事への参加などを通じて交流を深めている。また、地域のボランティアを通じての交流にも取り組んでいる。ただ、ホームがビルの4階にあるため気安く立ち寄ってもらうことが難しく、ご近所付き合いについて検討を続けている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 実習生の受け入れは出来ているが、地域の高齢者に対しての取り組みは十分ではない。	※	老人会、自治会などに出向いて認知症についての学習会などを行う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価は職員全員で行い、外部評価の結果も周知しており、改善にむけて取り組んでいる。		
			(外部評価) 職員は評価の意義を理解しており、自己評価を職員全員で行っている。外部評価結果も周知しており、評価を活かした改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 評価についての意見交換を行いサービス向上に生かしている。 (外部評価) 本人、家族、地域代表者、行政関係者等の参加で定期的開催している。ホームの運営状況や意見・提案や、認知症や福祉に関する勉強等で理解を深める機会としている。意見や提案には具体的に取り組んでいる。	※	地域の人の幅広い参加を呼びかける。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 業務上の問題点、疑問点などを尋ねる以外はあまり行き来できていない。 (外部評価) 市の担当者とは相談や情報交換ができています。	※	市担当者に積極的に関係作りを行う。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 特定の利用者について関係者と協議した。地域包括支援センターに後見人制度についての学習会を依頼し開催した。	※	さらに制度についての学習会を開く。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止関連法の学習会に参加したり、会議の時に話し合ったりして虐待防止の徹底を図っている。特に「言葉」の虐待については常に検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行い、退去時にも同様にし、関係者の理解を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉、態度などから要求、意見、苦情を考察し、カンファレンスなどで話し合っている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 利用者の担当職員が、定期的に利用者の状態を便りと写真で知らせている。 (外部評価) 来訪の多い家族には来訪時に報告し、情報交換もしているが、そうでない場合は電話や手紙等、個々に対応している。健康状態の報告はきめ細かくしている。状態が思わしくなかったり認知症が進んでいるような時の報告は家族の受けるダメージも深く、特に注意している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の意見、不満をなるべく聞きだすよう努めている。カンファレンスなどで話し合い、対応できるようにしている。 (外部評価) 家族の意見や不満や苦情には早急に対応するよう努めている。できるだけ意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけており、意見箱を設置したり、契約時に外部の相談窓口を説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 折に触れ、意見提案を聞いているが、不満や苦情をすべて、把握しているとは言いがたい。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 時間帯をずらすなど、柔軟に対応しているが、充分とは言えない。	※	必要な時間帯に、さらに職員が確保できるようにしていきたい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動や離職がある場合は、ダメージはなるべく少なくなるよう配慮している。 (外部評価) 退職や法人内での異動もあるが、引き継ぎや教育期間を工夫し、なるべく馴染みの関係を保てるよう配慮している。退職する職員については、利用者への影響を考慮してそっと引き継ぐケースが多い。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会や講演会には参加できるようにしている。 (外部評価) 新人研修は計画的に実施している。外部研修にもできるだけ参加するようにしている。基本的に自主参加としているが、参加費の補助があり、レポート提出や報告の機会がある。法人内研修は各専門分野の職員が担当して実施している。ホームの勉強会は会議時等の機会を捉えて行っている。	※	さらに有意義な研修をさらに多数の職員が受講できるようにする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 相互評価への参加や地区のグループホーム研修会に参加している。 (外部評価) 東予地区グループホーム連絡協議会の管理者交流会等の機会に具体的に情報交換している。また、相互評価に参加したり、研修会の参加時も交流の良い機会となっており、質の向上に相互に取り組んでいる。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 茶道、華道、着付け教室などに参加できる。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けた支援をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面接時には本人の状態把握に努めるようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居時の面接や面会時、家族の心配事、希望などを十分に時間をかけて聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と話し合い、状況を見極めてサービス利用の紹介、対応をしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) なるべく環境変化のストレスを軽減させるよう配慮している。 (外部評価) 法人内別事業所や自宅からの利用が多い。家族の説明で納得しての利用が望ましいが、納得や理解ができていないこともあり、家族と情報交換を密にして、環境の変化への配慮を個々に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者とともに、喜び、悲しみ、「介護される人」ではなく一緒に暮らしていく仲間として支えあっている関係を作ることを心がけている。 (外部評価) プライドを尊重し、言葉遣いや態度に注意している。得意なことを教えてもらい、一緒に生活して支えあう姿勢を持って支援している。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会や連絡の多い家族には、話し合う機会も多く一緒に支えていく関係も築きやすい。	※	面会にこられない家族に対しては、こちらから積極的に情報を提供していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人の状況を細かに知らせるようにし、家族と良い関係が築けるように支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 幼馴染の訪問、馴染みの店への外出など、関係を継続している。	※	お墓参りなど、行きたい場所への支援をもっと充実させたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性は常に情報共有できるようにし、できるだけ「共に暮らす」暮らしを考慮しながら支援している。	※	利用者間のトラブルをなるべく早く察知して、回避している。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所してからも、家族の相談にのったり、移転先の他事業所に面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人にとってどうなのか？ということを常に考えながら、会話の中、表情などから、推し量るようにしている。 (外部評価) 生活や会話の中で本人の思いや意向の把握に努め、生き甲斐を一緒に見つけていく姿勢を持つよう努めている。	※	本人の希望、意向はもっと探っていかなければならないと思われる。「生き甲斐」となるものをどのように築いていくかを常に検討しながらの支援をしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族からの聞き取り等により把握している。生活アセスメントシートに記入していただく。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 生活記録表や日々の様子から、ひとりひとりの現状把握に努めている。生活アセスメントシートに記入していただく。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や本人の意見を聞き、ケース会で話し合いながら、ケアプランを作成している。 (外部評価) 本人や家族の意向を把握して介護計画に反映させている。職員のカンファレンスで計画の評価を月2回程度行い、計画に活かしている。	※	面会にこられない家族に対しては、こちらから積極的に情報を提供していく。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) ケアプランの見直しは定期的に行っているが、本人の状態変化があったときは、現状に即したケアプランを作成している。 (外部評価) 定期的な見直しを行い、必要時にはその都度見直している。利用者個々に担当者を設定している。食事、排泄、入浴、転倒リスク等の一覧表として情報をまとめており、実践や評価に利用している。	※	緊急の場合は、家族の参加が難しいことがあるので、機会をみて説明し、意見を求めていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のケース記録は、介護計画をもとに記録し、「気づき」に重点をおいている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人、家族の希望で通院介助をしている。 (外部評価) 本人の希望に添うことを大切にしており、家族の協力を得ながら支援している。通院、理美容院へ出かける、買い物、墓参り、仏事、観劇、友人と会うなど、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 火災訓練を行ったり、図書館を利用したり、地域の文化祭に参加している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要に応じて理美容サービスを利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に包括支援センターの職員が参加しており、いろいろな情報を得られている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者各自に主治医がおり、受診の時は職員が同行している。 (外部評価) 本人及び家族の希望する医療機関への受診を支援している。協力医療機関はホームのすぐ近くで、管理者や看護師が中心となって連携を取っている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 市内にある認知症専門医に定期的に受診している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) グループホーム内に看護師が配属されており、健康管理に気を配っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した場合は、頻回に面会に行き、常に医療関係者や家族と早期退院にむけて、調整している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 今までは対象となる利用者はいなかったが、ニーズがあれば対応できる。 (外部評価) 早い段階から本人や家族の希望を確認し、本人、家族、医師等で話し合っている。終末をホームで迎えた経験は無いが、対応に向けて検討を重ねている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 現在対象となる利用者はいないが、将来必要となれば対応していく。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 同一施設内の移動が多く、十分な情報交換ができ、移動後も職員やホーム利用者も訪ねている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職員会、ケース会など機会あるごとに言葉かけ、対応についての留意点を注意喚起し、向上していくように努力している。プライバシーの保護もカンファレンスで再三検討している。 (外部評価) 言葉かけや態度について職員会議等で機会あるごとに話し合っている。記録類は事務室で保管し、取り扱いに注意している。書類の廃棄処分は法人でまとめて処理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 個人の趣味、好みを話し合いながら利用者の決定を尊重しながらの暮らしを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 大まかな1日の流れはあるが、個人の状況に合わせて柔軟に対応している。 (外部評価) 大まかな一日のスケジュールはあるが、個々の希望や状況に添ってできるだけ柔軟に支援している。	※	さらに希望にそえるように努力したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 朝の更衣時に自分の好みで整えている。外出の時などは、おしゃれを楽しむように支援している。行きつけの美容院や、化粧品店などを利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 各々の好みの食事を作るようにしている。調理、盛り付け、片付けも、利用者と一緒に行い、同じ食卓に向かいながら、楽しく食事できるような雰囲気作りにも取り組んでいる。 (外部評価) 朝食と夕食は、法人の厨房で一括して作ったものを利用者と共に配膳等している。昼食は利用者と共に献立を決め、買い出しに行き一緒に作っている。個々の好みや力に応じた工夫をして職員と共に楽しみながら食事している。食事に関する一連の作業は各自できる範囲で参加しており、自分の役割としている利用者もいる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の体調をみながら、それぞれの希望を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄記録表を作成して、一人一人の状態を把握し、失敗のないようにさりげなくトイレ誘導をしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 夜間浴はできていないが、他は各々の希望にそうようにしている。 (外部評価) 毎日の入浴が可能な体制にしている。個々の希望やタイミングに合わせているが、少なくとも一日おきには入浴できている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中に活動性を上げるようにし、夕方からは、就寝に向けて穏やかに過ごせるよう支援している。表情や態度を見ながら休息を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味や経験などを生かしてもらえような行事、役割などを作り支援している。 (外部評価) 利用者の趣味や経験、日頃の行動や会話から楽しみとなることに結びつけられるよう支援している。インコやオロギの世話、掃除や片付け、オルガン演奏、絵画・書画作成、観劇、手芸品の作成、料理等活発にしている利用者もいる。	※	生活の質を上げる為に常に利用者と一緒に探求していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の希望、力量に応じてお金を所持して使っている。利用者によっては、出納帳をつけ面会時に家族に確認していただく。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は散歩、買い物に出かけている。観劇や映画、本屋、など個人の希望の店に行けるように支援している。 (外部評価) 体調や天気に配慮しながら買い物や散歩をしている。個々の希望に応じて図書館や本屋へ出かけたり、絵をみたり、観劇やカラオケにも行っている。しかし、職員はまだまだ個々の要望には応じ切れていないので、さらに取組みたいと考えている。次第に行動範囲が狭まる利用者は、広い屋上も散歩コースとなっている。	※	さらに、いつでも、どこにでも外出支援ができるようにしたい。 利用者の要望は多様で、いつでも、どこにでも行きたいという希望もあるため、より具体的に希望について検討を続けることを期待する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 希望がかなうように努力はしているが、限られた場所になりやすい。	※	遠方の外出を支援していきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望にそうように支援している。	※	家族に絵手紙を出したり、暑中見舞いやはがきを書いている
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会にこられた方がゆっくりと過ごせるよう茶湯をサービスしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は決してしてはならないという意識を徹底している。	※	さらに、学習会などで意識強化を図りたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所が4階にあるため、各ユニットの玄関の施錠はしていないが、外からの進入口には電子ロックがある。 (外部評価) ホーム玄関の鍵はしていないが、エレベーターに電子ロックがあり、利用者の出入りが一人ではできない。鍵をかけない工夫については全職員で検討を続けているが、ビルの4階にある複合福祉施設であるため他事業所との兼ね合いもあり、ロック解除には至っていない。	※	電子ロックを解除していく方向で検討したい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員は記録などリビングで見守りながら取るようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じた対応をしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハット、事故報告などを作成し、常に事故防止に心がけている。定期的に消防訓練を行っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 全ての職員が救命救急の研修を受け、緊急時の対応マニュアルも周知徹底をはかっている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力で避難訓練や消火器の使い方などの訓練は おこなっている。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得ながら避難訓練を実施している。法人全体で、夜間を想定しての訓練も実施している。フロアの続きにスロープがあり、避難路としている。訓練参加者はその都度振り返りをしている。	※	地域の人々との協力体制が取れるように検討する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 機会ある毎に左記のように説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) バイタルチェックは毎日行っているが、常に状態観察を怠らず、変化があれば、看護師に報告し対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルをケース毎に整理して、職員が分かりやすいようにしている。新たな薬の服薬時には、特に状態変化に気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録表を作成し、排泄状態を把握しながら、食事の内容の検討、水分補給を心がけ、身体を動かすような支援をしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを支援している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量を記録し、情報を共有している。同施設の管理栄養士にアドバイスをもらっている。日常的に水分摂取量を記入している。 (外部評価) 食事量、栄養バランス、水分量等一人ひとりの状態を把握し、時折法人の管理栄養士がチェックしている。個々の状態や習慣に応じた支援をしており、卵アレルギーの利用者の食事支援にはかなり手間をかけている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染予防委員会があり、マニュアルを作成し、実行している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理器具などは、毎回熱湯消毒し、衛生管理に努めている。食品はできるだけ毎日買い物に出かけ新鮮なものを購入している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ビルの4階にあるため近隣の人にとっては入りにくい。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング、廊下、和室など季節を取り入れたしつらえを工夫している。 (外部評価) 居間、廊下、畳のコーナーはゆったりしており、ベランダや玄関には観葉植物や草花があり、落ち着きを感じる。台所と食堂はお互いの気配が分かり、調理の臭いや音が日常を感じさせる。浴室やトイレは手すりがついて広く、勝手がよい。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室を利用している。掘りごたつを設置している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や、家族の写真などを置いている。 (外部評価) 部屋の多くは洗面台と洋式トイレが設置されている。それぞれ個性的な部屋で、自宅から仏壇、エレクトーン、テレビ、タンス、机、ソファ、写真、手芸作品、書画等を自宅から持ち込んで配置したり、飾っている。家族の協力で季節の衣類等の入れ替えもしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎朝、掃除の時には窓を開け換気を行っている。エアコンの温度はこまめに調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差がなく、廊下、浴室、トイレ内には手すりが設置されている。介護用ベッドも利用している。	※	歩行が不安定な利用者の居室内に手すりが必要である。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 何が障害となっているかを見極めて、できる力を維持するような環境を整えている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花を植え、水遣りをしたり、楽しんで活動できている。野菜を育て、収穫して調理することに意欲的に取り組んでいる。	※	野菜の種類を多く植えて、収穫を楽しみたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) ③ 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

出来る限り「自分のことは自分で」できるように支援していく。利用者間の助け合いやコミュニケーション能力向上がさりげなくできるような環境を提供している。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームおてだま

(ユニット名) 竹とんぼ

記入者(管理者)
氏名 田坂愛子

評価完了日 平成 20 年 8 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 職員全員で新しい理念を作成した。平成19年4月 (外部評価) 職員全員で検討を重ね、平成19年4月に作成している。全員で作成したことで、職員は理念をより身近に感じることができ、地域とのつながりを大切にしている。また、各ユニットごとに目標を立てて取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 朝の申し送り時に理念を確認しあっている。カンファレンスなどに常に理念を意識した話し合いをしてケアプランに生かしている。 (外部評価) 職員会議の際などを活用し、実践に活かすよう話し合っている。また、理念や目標を事務室、玄関、廊下に掲げている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議などで折に触れ、理念を伝えている。	※	地域の活動に参加しながら少しずつ理念の浸透をはかりたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や買い物では、挨拶や話はできているが、事業所がビルの4階にあるために入りにくさは否めない。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会の文化祭、校区の運動会、夏祭りへの参加、児童センターの子供たちとの交流、などに取り組んでいる。 (外部評価) 地域行事の情報は少しずつ蓄積してきており、自治会の文化祭、校区運動会、祭り等への参加、児童センターの子どもたちとの交流、地域の伝統行事への参加などを通じて交流を深めている。また、地域のボランティアを通じての交流にも取り組んでいる。ただ、ホームがビルの4階にあるため気安く立ち寄ってもらうことが難しく、ご近所付き合いについて検討を続けている。	※	児童センターの子供たちとのつながり、地域の伝統行事への参加などさらに交流の機会を増やしていきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 実習生の受け入れは出来ているが、地域の高齢者に対する取り組みは十分ではない。	※	老人会、自治会などに出向いて認知症についての学習会などを行う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価は職員全員で行い、外部評価の結果も周知しており、改善にむけて取り組んでいる。 (外部評価) 職員は評価の意義を理解しており、自己評価を職員全員で行っている。外部評価結果も周知しており、評価を活かした改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 評価についての意見交換を行いサービス向上に生かしている。 (外部評価) 本人、家族、地域代表者、行政関係者等の参加で定期的開催している。ホームの運営状況や意見・提案や、認知症や福祉に関する勉強等で理解を深める機会としている。意見や提案には具体的に取り組んでいる。	※	地域の人の幅広い参加を呼びかける。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 業務上の問題点、疑問点などを尋ねる以外はあまり行き来できていない。 (外部評価) 市の担当者とは相談や情報交換ができています。	※	市担当者に積極的に関係作りを行う。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 特定の利用者について関係者と協議した。地域包括支援センターに後見人制度についての学習会を依頼し開催した。	※	さらに制度についての学習会を開く。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止関連法の学習会に参加したり、会議の時に話し合ったりして虐待防止の徹底を図っている。特に「言葉」の虐待については常に検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行い、退去時にも同様にし、関係者の理解を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉、態度などから要求、意見、苦情を考察し、カンファレンスなどで話し合っている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 利用者の担当職員が、定期的に利用者の状態を便りと写真で知らせている。 (外部評価) 来訪の多い家族には来訪時に報告し、情報交換もしているが、そうでない場合は電話や手紙等、個々に対応している。健康状態の報告はきめ細かくしている。状態が思わしくなかったり認知症が進んでいるような時の報告は家族の受けるダメージも深く、特に注意している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の意見、不満をなるべく聞きだすよう努めている。カンファレンスなどで話し合い、対応できるようにしている。 (外部評価) 家族の意見や不満や苦情には早急に対応するよう努めている。できるだけ意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけており、意見箱を設置したり、契約時に外部の相談窓口を説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 折に触れ、意見提案を聞いているが、不満や苦情をすべて、把握しているとは言いがたい。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 時間帯をずらすなど、柔軟に対応しているが、充分とは言えない。	※	必要な時間帯に、さらに職員が確保できるようにしていきたい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動や離職がある場合は、ダメージはなるべく少なくなるよう配慮している。 (外部評価) 退職や法人内での異動もあるが、引き継ぎや教育期間を工夫し、なるべく馴染みの関係を保てるよう配慮している。退職する職員については、利用者への影響を考慮してそつと引き継ぐケースが多い。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会や講演会には参加できるようにしている。 (外部評価) 新人研修は計画的に実施している。外部研修にもできるだけ参加するようにしている。基本的に自主参加としているが、参加費の補助があり、レポート提出や報告の機会がある。法人内研修は各専門分野の職員が担当して実施している。ホームの勉強会は会議時等の機会を捉えて行っている。	※	さらに有意義な研修をさらに多数の職員が受講できるようにする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 相互評価への参加や地区のグループホーム研修会に参加している。 (外部評価) 東予地区グループホーム連絡協議会の管理者交流会等の機会に具体的に情報交換している。また、相互評価に参加したり、研修会の参加時も交流の良い機会となっており、質の向上に相互に取り組んでいる。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 茶道、華道、着付け教室などに参加できる。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けた支援をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面接時には本人の状態把握に努めるようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居時の面接や面会時、家族の心配事、希望などを十分に時間をかけて聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と話し合い、状況を見極めてサービス利用の紹介、対応をしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) なるべく環境変化のストレスを軽減させるよう配慮している。 (外部評価) 法人内別事業所や自宅からの利用が多い。家族の説明で納得しての利用が望ましいが、納得や理解ができていないこともあり、家族と情報交換を密にして、環境の変化への配慮を個々に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者とともに、喜び、悲しみ、「介護される人」ではなく一緒に暮らしていく仲間として支えあっている関係を作ることを心がけている。 (外部評価) プライドを尊重し、言葉遣いや態度に注意している。得意なことを教えてもらい、一緒に生活して支えあう姿勢を持って支援している。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会や連絡の多い家族には、話し合う機会も多く一緒に支えていく関係も築きやすい。	※	面会にこられない家族に対しては、こちらから積極的に情報を提供していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人の状況を細かに知らせるようにし、家族と良い関係が築けるように支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人や家族の面会を待つことが多い。	※	外出の機会を増やす。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性は常に情報共有できるようにし、できるだけ「共に暮らす」暮らしを考慮しながら支援している。	※	利用者間のトラブルをなるべく早く察知して、回避している。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所してからも、家族の相談にのったり、移転先の他事業所に面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人にとってどうなのか？ということを常に考えながら、会話の中、表情などから、推し量るようにしている。 (外部評価) 生活や会話の中で本人の思いや意向の把握に努め、生き甲斐を一緒に見つけていく姿勢を持つよう努めている。	※	本人の希望、意向はもっと探っていかなければならないと思われる。「生き甲斐」となるものをどのように築いていくかを常に検討しながらの支援をしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族からの聞き取り等により把握している。生活アセスメントシートに記入していただく。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 生活記録表や日々の様子から、ひとりひとりの現状把握に努めている。生活アセスメントシートに記入していただく。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や本人の意見を聞き、ケース会で話し合いながら、ケアプランを作成している。 (外部評価) 本人や家族の意向を把握して介護計画に反映させている。職員のカンファレンスで計画の評価を月2回程度行い、計画に活かしている。	※	面会にこられない家族に対しては、こちらから積極的に情報を提供していく。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) ケアプランの見直しは定期的に行っているが、本人の状態変化があったときは、現状に即したケアプランを作成している。 (外部評価) 定期的な見直しを行い、必要時にはその都度見直している。利用者個々に担当者を設定している。食事、排泄、入浴、転倒リスク等の一覧表として情報をまとめており、実践や評価に利用している。	※	緊急の場合は、家族の参加が難しいことがあるので、機会をみて説明し、意見を求めていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のケース記録は、介護計画をもとに記録し、「気づき」に重点をおいている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人、家族の希望で通院介助をしている。 (外部評価) 本人の希望に添うことを大切にしており、家族の協力を得ながら支援している。通院、理美容院へ出かける、買い物、墓参り、仏事、観劇、友人と会うなど、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 火災訓練を行ったり、図書館を利用したり、地域の文化祭に参加している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要に応じて理美容サービスを利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に包括支援センターの職員が参加しており、いろいろな情報を得られている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者各自に主治医がおり、受診の時は職員が同行している。 (外部評価) 本人及び家族の希望する医療機関への受診を支援している。協力医療機関はホームのすぐ近くで、管理者や看護師が中心となって連携を取っている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 市内にある認知症専門医に定期的に受診している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) グループホーム内に看護師が配属されており、健康管理に気を配っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した場合は、頻回に面会に行き、常に医療関係者や家族と早期退院にむけて、調整している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 今までは対象となる利用者はいなかったが、ニーズがあれば対応できる。 (外部評価) 早い段階から本人や家族の希望を確認し、本人、家族、医師等で話し合っている。終末をホームで迎えた経験は無いが、対応に向けて検討を重ねている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 現在対象となる利用者はいないが、将来必要となれば対応していく。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 同一施設内の移動が多く、十分な情報交換ができ、移動後も職員やホーム利用者も訪ねている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職員会、ケース会など機会あるごとに言葉かけ、対応についての留意点を注意喚起し、向上していくように努力している。プライバシーの保護もカンファレンスで再三検討している。 (外部評価) 言葉かけや態度について職員会議等で機会あるごとに話し合っている。記録類は事務室で保管し、取り扱いに注意している。書類の廃棄処分は法人でまとめて処理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 個人の趣味、好みを話し合いながら利用者の決定を尊重しながらの暮らしを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 大まかな1日の流れはあるが、個人の状況に合わせて柔軟に対応している。 (外部評価) 大まかな一日のスケジュールはあるが、個々の希望や状況に添ってできるだけ柔軟に支援している。	※	さらに希望にそえるように努力したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 朝の更衣時に自分の好みで整えている。外出の時などは、おしゃれを楽しむように支援している。行きつけの美容院や、化粧品店などを利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 各々の好みの食事を作るようにしている。調理、盛り付け、片付けも、利用者と一緒に行い、同じ食卓に向かいながら、楽しく食事できるような雰囲気作りにも取り組んでいる。 (外部評価) 朝食と夕食は、法人の厨房で一括して作ったものを利用者と共に配膳等している。昼食は利用者と共に献立を決め、買い出しに行き一緒に作っている。個々の好みや力に応じた工夫をして職員と共に楽しみながら食事している。食事に関する一連の作業は各自できる範囲で参加しており、自分の役割としている利用者もいる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の体調をみながら、それぞれの希望を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄記録表を作成して、一人一人の状態を把握し、失敗のないようにさりげなくトイレ誘導をしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 夜間浴はできていないが、他は各々の希望にそうようにしている。 (外部評価) 毎日の入浴が可能な体制にしている。個々の希望やタイミングに合わせているが、少なくとも一日おきには入浴できている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中に活動性を上げるようにし、夕方からは、就寝に向けて穏やかに過ごせるよう支援している。表情や態度を見ながら休息を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味や経験などを生かしてもらえような行事、役割などを作り支援している。 (外部評価) 利用者の趣味や経験、日頃の行動や会話から楽しみとすることに結びつけられるよう支援している。インコやオロギの世話、掃除や片付け、オルガン演奏、絵画・書画作成、観劇、手芸品の作成、料理等活発にしている利用者もいる。	※	生活の質を上げる為に常に利用者と一緒に探求していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の希望、力量に応じてお金を所持して使っている。利用者によっては、出納帳をつけ面会時に家族に確認していただく。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は散歩、買い物に出かけている。観劇や映画、本屋、など個人の希望の店に行けるように支援している。 (外部評価) 体調や天気に配慮しながら買い物や散歩をしている。個々の希望に応じて図書館や本屋へ出かけたり、絵をみたり、観劇やカラオケにも行っている。しかし、職員はまだまだ個々の要望には応じ切れていないので、さらに取組みたいと考えている。次第に行動範囲が狭まる利用者は、広い屋上も散歩コースとなっている。	※	さらに、いつでも、どこにでも外出支援ができるようにしたい。 利用者の要望は多様で、いつでも、どこにでも行きたいという希望もあるため、より具体的に希望について検討を続けることを期待する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 希望がかなうように努力はしているが、限られた場所になりやすい。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望にそうように支援している。	※	家族に絵手紙を出したり、暑中見舞いやはがきを書いている
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会にこられた方がゆっくりと過ごせるよう茶湯をサービスしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は決してしてはならないという意識を徹底している。	※	さらに、学習会などで意識強化を図りたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所が4階にあるため、各ユニットの玄関の施錠はしていないが、外からの進入口には電子ロックがある。	※	電子ロックを解除していく方向で検討したい。
			(外部評価) ホーム玄関の鍵はしていないが、エレベーターに電子ロックがあり、利用者の出入りが一人ではできない。鍵をかけない工夫については全職員で検討を続けているが、ビルの4階にある複合福祉施設であるため他事業所との兼ね合いもあり、ロック解除には至っていない。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員は記録などリビングで見守りながら取るようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じた対応をしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハット、事故報告などを作成し、常に事故防止に心がけている。定期的に消防訓練を行っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 全ての職員が救命救急の研修を受け、緊急時の対応マニュアルも周知徹底をはかっている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力で避難訓練や消火器の使い方などの訓練は おこなっている。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得ながら避難訓練を実施している。法人全体で、夜間を想定しての訓練も実施している。フロアの続きにスロープがあり、避難路としている。訓練参加者はその都度振り返りをしている。	※	地域の人々との協力体制が取れるように検討する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 機会ある毎に左記のように説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) バイタルチェックは毎日行っているが、常に状態観察を怠らず、変化があれば、看護師に報告し対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルをケース毎に整理して、職員が分かりやすいようにしている。新たな薬の服薬時には、特に状態変化に気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録表を作成し、排泄状態を把握しながら、食事の内容の検討、水分補給を心がけ、身体を動かすような支援をしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを支援している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量を記録し、情報を共有している。同施設の管理栄養士にアドバイスをもらっている。日常的に水分摂取量を記入している。 (外部評価) 食事量、栄養バランス、水分量等一人ひとりの状態を把握し、時折法人の管理栄養士がチェックしている。個々の状態や習慣に応じた支援をしており、卵アレルギーの利用者の食事支援にはかなり手間をかけている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染予防委員会があり、マニュアルを作成し、実行している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理器具などは、毎回熱湯消毒し、衛生管理に努めている。食品はできるだけ毎日買い物に出かけ新鮮なものを購入している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ビルの4階にあるため近隣の人にとっては入りにくい。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング、廊下、和室など季節を取り入れたしつらえを工夫している。 (外部評価) 居間、廊下、畳のコーナーはゆったりしており、ベランダや玄関には観葉植物や草花があり、落ち着きを感じる。台所と食堂はお互いの気配が分かり、調理の臭いや音が日常を感じさせる。浴室やトイレは手すりがついて広く、勝手がよい。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室を利用している。掘りごたつを設置している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や、家族の写真などを置いている。 (外部評価) 部屋の多くは洗面台と洋式トイレが設置されている。それぞれ個性的な部屋で、自宅から仏壇、エレクトーン、テレビ、タンス、机、ソファ、写真、手芸作品、書画等を自宅から持ち込んで配置したり、飾っている。家族の協力で季節の衣類等の入れ替えもしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎朝、掃除の時には窓を開け換気を行っている。エアコンの温度はこまめに調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差がなく、廊下、浴室、トイレ内には手すりが設置されている。介護用ベッドも利用している。	※	歩行が不安定な利用者の居室内に手すりが必要である。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 何が障害となっているかを見極めて、できる力を維持するような環境を整えている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花を植え、水遣りをしたり、楽しんで活動できている。野菜を育て、収穫して調理することに意欲的に取り組んでいる。小鳥の飼育もしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	1 ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

身体機能の低下を防ぐように支援している(毎日足浴をして血液循環を良くし足のむくみを緩和している)。館外散歩が出来にくいときは、館内散歩をこころがけている。又屋上散歩後の屋上でティータイムを楽しみにしている。